

① 本町における郷名の表示のあり方について

本町では、住所としては「何々郷何番地」などの郷名が用いられており、国税庁の路線価図や国勢調査の町、丁、字データなどの公的な地図上でも郷名が正式な地名として表されております。一方で、町内を実際に歩いてみると現在地がどの郷に属しているか、また、ここは何处なのかを示す郷名の標識や案内板がほとんど見当たらず、新しく転入してきた住民や町外からの来訪者にとっては、場所の把握が難しい状況にあるのではないのでしょうか。

言うまでもなく、本町は住居表示による街区方式の住所制度を導入している大都市とは異なり、郷名と番地による地番方式を基本としているが、地名が制度上存在しているにもかかわらず、現地には視認可能（目で見ることが出来る）な表示が乏しい現状は、地理情報の分かりやすさや万が一の防災面の視点からも課題があるのではないのでしょうか。

災害時の通報や避難誘導、迷い人の発見通報や救急搬送時の現場の位置把握、また、子どもや高齢者にも分かりやすい地域表示といった観点からも郷名を示す標識や電柱表示などの整備は、一定の意義があるのではないかと思います。そこで以下の3点について伺う。

- （１）本町がこれまで郷名標識を体系的に整備してこなかった理由やその経緯を伺う。
- （２）費用対効果などの判断、現状認識と課題の捉え方を伺う。
- （３）今後、整備を検討する考えがあるかどうかを伺う。

② 本町の放課後児童クラブの今後のあり方について

本町は、共働き世帯の増加や働き方の多様化に伴い、放課後や長期休業中に小学生を安全に預かる放課後児童クラブの役割が今以上に重要になってきます。新たに策定された「長与町こども計画」においても、放課後児童クラブは、教育・保育と同じように重要な子育て支援施策として位置付けられています。一方で、利用ニーズの高まりや多様化、支援員の確保や育成、施設環境の整備など、ソフト面、ハード面の両面からの課題が問題となっています。そこで、町としての現状認識と今後の放課後児童クラブの整備方針並びに具体的な改善策について伺う。

③ 町内の墓地の実態把握と今後のあり方について

本町の将来像を示した第11次総合計画の中でも人口減少と高齢化が今後一段と進み、地域の暮らし方や土地利用の姿が大きく変化していくことが示されています。こうした中で、これまで当たり前のように受け継がれてきた墓地についても、維持や承継が難しくなってきたり、墓じまいや改葬（墓の引っ越し）、合葬墓の利用など、新しい選択肢を考える必要が出てきています。一方で、町内に墓地がいくつあり、どこに、どのような形で存在しているのか、また、それぞれを誰が管理し、承継が難しい墓や無縁墓がどの程度生じつつあるのか。現時点で、こうした基本的な実態が、どうなっているのか等の不明な部分がある。平成27年第1回定例会において当時の担当課長が、古くからある地縁の墓地、寺院管理の墓地など合わせて墓地開発の許可件数は大小合わせて21件と説明しているが、改めて以下の質問をする。

- （１）町内の墓地は、公営、民営、共同墓地などを含め、現在いくつあるか。
- （２）最近新たに許可された墓地はあるか。
- （３）町内に寺院管理の墓地はいくつあるか。
- （４）墓地開発許可の最新年次データは何处で確認できるか。
- （５）町内に無許可とみなされる墓地はあるか。

	(6) 町として、これらの状況を踏まえ、今後の墓地のあり方をどう考えるか。
--	---------------------------------------